

交流人口の拡大実現に向け、盛岡の魅力発信を！

交流人口拡大への期待と盛岡の景況について

国が掲げる「まち・ひと・しごと創生総合戦略」において、地域経済の活性化に向けた定住促進や交流人口拡大は重要課題の一つです。新春座談会では、2018年以降に県内で予定される祭りやスポーツなどを話題にあげ、岩手・盛岡の魅力はどう伝えていくか、交流人口の拡大を実現していくべきか、各々の立場からお考えを伺いました。

谷村会頭 ◆ 少子高齢化は、どの業界にも関わってくる問題です。岩手県、そして盛岡市は単なる観光地ではなく、ゆったりと滞在してリピーターが増えるような街を目指しています。2018年はイベントもたくさんありますが、6月に運行開始する宮古・室蘭間のフェリーも沿岸だけの話題ではないはず。盛岡が岩手全体に人を呼び込む玄関口として盛り上げていくことで、交流人口増加に大きな変化が生まれるのではないのでしょうか。東北六魂祭から数えて2巡目となる「東北絆まつり」については課題もありませんが、これを機に盛岡さんさ踊りの観客が増えることを期待しています。一方、私たち清涼飲料業界を振り返ると、昨年は業績があまり思わしくない1年でした。天候に大きく影響を受ける業種です。当社に限っていうなら、世界ブランドの商品を岩手県で55年にわたって作り続けてきた地場企業であるという誇りを持ちながら、原点に立ち返る時期にある。そう強く感じています。

橋本 ◆ 地方における人口減少は、出生率や高齢化を要因とする自然減だけでなく、就職や進学による人材の県外流出など社会減も大きな要因となります。交流人口は、受け入れ側の創意工夫で拡大し、地域経済の活性化に大きく寄与できると思います。私たちは、それを「盛岡さんさ踊り」や「東北六魂祭」などで実感しました。2018年に盛岡商工会議所が関わる事業に目を向けると、初夏に地元盛岡で開催される「東北絆まつり」、10月の「第50回全国商工会議所女性会連合会岩手総会」と続き、県外から多くの方々の来盛が見込まれます。さらに2019年にはラグビーW杯の釜石開催。さらには「世界につながる地方創生」ともいえる国際リニアコライダー（ILC）誘致も本格化し、岩手県全体が大きな転機を迎える時期です。それらを見据えながら、まずは現在の各業界の景況などについてお伺いします。

■ 座談会出席者

【会頭】

谷村邦久 /

みちのくコカ・コーラボトリング(株) 代表取締役会長

【副会頭】

鎌田英樹 / (株)IBC 岩手放送 代表取締役社長

【盛岡さんさ踊り実行委員会 副委員長】

鈴木稔 / (株)真珠苑ホールディングス 代表取締役

【盛岡商工会議所 観光・料飲・サービス部会 部会長】

太田代洋一郎 / 岩手県旅館ホテル生活衛生同業組合盛岡支部 支部長

【盛岡商工会議所女性会 会長】

佐々木祐子 / 東京土地販売(株) 代表取締役

【司会進行】

橋本良隆 / 盛岡商工会議所 専務理事



谷村会頭

鈴木◆私たち飲食店業界も夏の天候に左右されます。昨年はビールの売れ行きもあまり良くなかった年でした。他県を見ると、「東北絆まつり」における仙台の飲食業の景況は良かった模様で、50万人前後の観光客が来たと聞きます。国際レベルや全国規模の会議、スポーツ開催、イベントによる交流人口の動きが景況に影響を及ぼすのは明らかで、今年の「東北絆まつり」にも期待しています。しかし、仙台と盛岡では都市の規模が違いますし、一過性のイベントに終わらせずに継続していくためにも運営面の工夫は必要不可欠です。昨年の盛岡さんさ踊りには海外からのお客様も多くいらっしゃいました。県外からのお客様に踊りのレクチャーをして踊りに加わってもらう企画にも、台湾、オーストラリアからのお客様、あるいは海外からの留学生も多く見られ、国際色豊かなイベント

に育ってきたと感じました。伝統は守りつつも工夫して新しいことを発信していくことが大事ですね。

橋本◆特にも飲食業界は、天候に左右される部分が大きいですね。祭りやスポーツなどを視野においた交流人口をどう創り出すが重要です。

鎌田◆谷村会頭もおっしゃった通り、交流人口による経済的寄与をうまく生かしながら、地元の活性化を図って行かなくてはなりません。放送局も景況の影響を受けやすい業種ですが、この岩手に密着して生きていく覚悟を持って仕事に臨んでいます。地元放送局としては、岩手に拠点を構えるあらゆる業種の皆様が業績を向上していける仕組みやムーブメントを起こしていけたらと思います。放送業界は県内イベントや旅行企画等々に関わる機会も多く、県内の人を動かすという点では有効な媒体と言えますし、県外とのネットワークもあります。そういう意味で、MICEなどと積極的に関わり、いろんな流れを巻き込みながら岩手や盛岡に来てもらうきっかけを生むことが大切だと思っています。

太田代◆皆さんご存知の通り、交流人口と交通の高速化も非常に深い関わりがあります。昭和57年に東北新幹線の大宮・盛岡間が開通しました。当時の新聞データを見ると、盛岡市

内の宿泊施設は2000室ほどだったようです。現在と比較すると宿泊施設は減少傾向にあるものの客室数は、約2倍の4000室ほどに増えているんです。交通の高速化と比例して宿泊のキャパシティも増えている現状が数値に表れています。青森や函館へと新幹線が延伸するたび、観光業界や商工会議所では「盛岡が通過駅にならないよう対策をどう講じるか」をテーマに掲げてきました。結果的に交流人口は増えているんですね。宮古と室蘭を結ぶフェリーもいよいよ今年運行開始です。海路や空路も含めた交通の高速化は経済の活性化に大きく寄与するはず。単に大型レジャー施設を誘致するというのではなく、環境を考慮しながら交流人口増加への取り組みを進めていきたいですね。

橋本◆過去を振り返ると、交通の高速化が交流人口拡大を後押ししてきたわけですが、さらに、花巻からの空路やフェリー開通などによって掛け算的に効果をもたらす可能性があまりあります。

佐々木◆色々な交通機関が発展することで、東京も北海道も、盛岡から日帰り可能な範囲になってきましたね。それに関連して、不動産業を営む私たちも感じるがあります。他県に住む方で盛岡にも住まいを持ちたいという方がここ1、2年で増

えてきたということです。例えば、たまたま学会で盛岡にいらした首都圏在住の方が、再び奥さんと一緒に盛岡を訪ねて来て、マンションを購入されたケースもあります。聞けば、「盛岡駅に降り立った時の印象が、北欧のノルウェーに似ている気に入った」とか。住んでいる側とは見えてる景色が違っています。盛岡は不動産業が多い街ですが、今までと違った目線で営業に取り組みなくてはならないと、ここ数年のお客様から教えていただきました。人口減少に伴う空き家対策も、行政と足並みを揃えながら考えるべき課題の一つ。私たちがもっと盛岡を効果的にプロモーションできるようにすることで業界が活性化し、交流人口が増えるいくのかもしれない。1世帯の住まいを売るといふ観点にとらわれず、人が集まる流れや仕組みを考えた複合的な考え方を取り入れ、「この盛



橋本専務理事



鎌田副会頭

岡をどう理解していただくか」を外
に對して柔軟に提案していきたいと
思います。

東北絆まつりから 発信する盛岡の魅力とは

橋本◆交流人口が定住人口に繋がった
実例は興味深いですね。住み手自
身が気づいていない盛岡の魅力は、
もつと多いのかもしれませんが、す
でに話に上がっています。今年盛岡
で開催される「東北絆まつり」はま
ちの魅力を感じてもらおう絶好の機会と
思われます。皆さんはどうお考えで
しょうか。

谷村◆「東北六魂祭」の様子を見て
も、盛岡さん踊りは東北の祭り
で一番人気があるんですよ。あ
でやかなミスさんの踊りと、
パワーあふれる太鼓の響きは
人を惹きつける素

晴らしさがあります。ただ、盛岡開
催で中央通りをパレードの会場に
した場合、観客席の設け方や誘導の仕
方は大きな課題の一つ。沿道から祭
りが見えづらいとビルの非常階段に
登る観客も多く、その安全対策も念
頭に入れておく必要があるでしょう。

来たお客様すべてにパレードを楽
しんでもらうのがベストですが、祭
りすべてを見られなかったとしても、
岩手公園や中津川でチャグチャグ馬
コと触れ合えるなど、「祭りプラスア
ルフア」の楽しみを付加していくこ
とが大事。幅広い展開を考え、イベ
ント全体のスケール感を増す補完的
なコンテンツを用意することで、結
果的には観覧に訪れたお客様の満足
度が上がるのではないのでしょうか。
それから、東京以南の人は岩手、青
森、秋田の正確な場所を知らない人
が多いんです。首都圏で開催される
会議で挨拶する時などは、地図で岩
手の場所を紹介するようにしていま
すが、他県へ出向く機会が多い我々
は、まず、岩手や盛岡の場所を知っ
てもらおう草の根運動を展開する役割
もあると思います。

鎌田◆東日本大震災津波から6年9
カ月。しかし、被災地に目を向け
れば大変な現実もあります。「東北六
魂祭」は、祭りを通して皆で一つにな
り、少しでも元氣になれたらと始ま
ったもの。復興をまだまだ後押しし
たいという思いが、2巡目となる「東

北絆まつり」に繋がっていると思っ
ています。高齢になると他県の祭り
に出向くことは体力的な辛さもあり
ますから、全てを観覧できなくても
6県が勢揃いした空気感やワクワク
感を届けられるよう、私たち放送局
も考えていきたいですね。

鈴木◆昨年12月、盛岡さん踊りは
台湾政府からの招待で台湾における
全国レベルの祭りに参加してしまし
た。なんと、日本からは山形の花笠
踊りと盛岡さん踊りの2つのみ。
光栄なことですが、でも、盛岡さん
踊りは第30回あたりまで県外での認
知度が低かったんですよ。全国的に
知られるきっかけになったのは、30
回の節目に「和太鼓の同時演奏記録」
でギネス世界記録に登録されたこと
でしょう。そして、「東北六魂祭」の
開催によって、県外の人たちに笑顔
と演技の迫力を体感してもらおう機
会が増えたと思います。エネルギー
ユな祭りは、復興の象徴そのもの。
仙台の場合はパレード会場以外にサブ
会場と関連イベントが連動して一つ
の祭りを作りあげていました。やは
り、会頭が話したように、メイン会
場以外の場所でもお客さんが楽しめる
展開をするとういいますね。

太田代◆今の時代は、旅行でも何
でも「比較すること」が当たり前で、
ウェブでもモノ選びの比較サイトや情
報収集に便利なキュレーションサイ

トが重宝されています。比べて選
世の中であることを前提に考えるな
ら、「東北絆まつり」のように6県の
祭りを一堂に並べて比較できるイ
ベントは、アピール要素を数多く備
えた盛岡さん踊りにとってありがた
いこと。多くの人に見比べてもら
うためにも「東北絆まつり」を継続
できる方法を考えていきたいですね。

鈴木◆確かに、見比べていただく
ことで、盛岡さん踊りの素晴らし
さをより感じてもらえますね。

佐々木◆女性会としては、街なか
盛岡女性会オ리지ナルのピンクの半
纏を着て盛岡らしさを賑やかに盛り
上げたいです。去年、盛岡さん踊
りで観光客向けに着付けのお手伝
いブースを設けましたところ、大
変好評でした。皆さんに楽しんで
いただける活動を積極的に行ってい
きたいですね。

女性会の 一大イベント開催！

橋本◆観光客の「参加したい」とい
う気持ちを汲み取る企画を、それぞ
れの地域で進めていけるといいです
ね。さて、前段でも触れましたお
り、今年の10月には「第50回全国商
工会議所女性会連合会岩手全国総
会」が開催されます。それについて、



北海道大学にある新渡戸稲造の碑文を訪問

佐々木会長の思いをお願いします。

佐々木◆東日本大震災の後、全国各地の女性会からいただいた励ましの言葉、そして多大なる支援の数々に對する感謝とお礼の意味も込め、震災から復興した今を知ってもらおうと、女性会は平成5年以来25年振りとなる全国総会を誘致いたしました。テーマに掲げる「つなげたい、笑顔のかけはし」は、新渡戸稲造先生の「われ、太平洋の橋とならん」の言葉から頂いたもの。昨年の全国大会は札幌市で開催されましたが、その際北海道大学にある新渡戸先生の碑文に大会成功に向けた決意を皆で誓ってきました。札幌から盛岡へと架け橋をかけ、さらに盛岡から全国の女性たちに笑顔で架け橋をかけたいと思います。大会2日目

は、エキスカカーションで被災地訪問と盛岡市内探訪を企画しており、私たち自ら赴き行程を決めました。自分たちが「見て、聞いて、納得した内容」でもてなしたいと思っています。全国から約1500人の女性経営者たちが集う一大イベント。お招きする皆さんが皆、岩手のファンになっていただき笑顔でお帰りになってほしいという思いを一心に、実行委員会を立ち上げて動き出しています。

谷村◆女性会は、秋の全国総会に向けた事前のさばき方が見事です。私たちは、なるほどとうなずくばかりです(笑)。秋までにILCの話題がさらに具体化すると一層機運も上がってきますね。



昨年の全国大会でのPRの様子

鈴木◆エキスカカーション予定地に足を運んで、気づいたこともメモして懸案事項をチェックしていると聞きました。女性会ならではの細やかさとパワーを感じます。盛岡の女性会は全国各地の中でも活動が活発です。盛岡さんさ踊りにも多大な協力をいただいているので、私たちもぜひ協力したいです。

佐々木◆私たち自身も、改めて岩手の良さを掘り起こして魅力を知る機会になっていきます。創意工夫をしながら都会にはないやり方を作り上げて形にしていきたいですね。

本格化する ILC 誘致活動

橋本◆2018年は、さまざまなイベントを通して、交流人口拡大に向けた受け入れ体制づくりをしていく年になりそうです。2019年にはラグビーW杯の釜石開催もあり、世界的な大プロジェクトとなるILC誘致活動も本格化していきます。それらにどう取り組んでいくべきか、まずは会頭からお話を伺いたいと思います。

谷村◆2018年は、岩手県ILC推進協議会の設立から6年目となります。これまで、やるべきことは上昇

気流に乗るべくがむしゃらに進めてきました。昨年末には大船渡市で県内沿岸市町村初の推進室を設置。ILC誘致の波及効果を考えると研究拠点周辺だけに留まりません。岩手沿岸や青森など車で200キロ程度は外国人にとって普段の行動範囲内。外国の方はあまりお金をかけずに普段の生活をどう楽しむかを知っている人が多いですから、受け入れる方も構える必要はないと思うんです。英語を話せなくなると、日本語で思い切り迎えればそれでいい。これから現実的な問題もたくさん出てきますが、実現をめざして邁進するしかありません。ILC推進協議会は行政主導でなく、会員の会費によって運営されている、それが強みです。だからこそ、さらなる組織強化が必須課題です。今年は関係者一同受け入れ環境整備に一層拍車をかけていきます。



鈴木副委員長



太田代部会長

橋本◆会頭からI L C先導役であると共に、実現に向けた責任を踏まえた発言をいただきました。皆さんはどうお考えですか。

鎌田◆2018年は明治維新から150年。東北の歴史を振り返れば決して安泰ではなく、先人たちは辛い時代もあったかと思えます。I L C誘致が実現したなら、世界が丸くなって取り組むプロジェクトを岩手が担うことになり、何百年も先まで誇るべきこと。未来世代の世界観がどれだけ広がるかと思うと、考えただけでワクワクします。今まで協議会の牽引力に引っ張られてきましたが、この先は県民総出で突き進むべきですね。

鈴木◆私はI L Cに関して全くの素人ですが、小学生の子ども達もその名前

前は知っています。岩手県は就職や進学で県外に出て行った世代の帰省率が低く、社会的人口減少の要因にもなっています。そういう意味でも、I L Cは大きな希望の種ですね。

太田代◆私は物理学における壮大なスケール感に惹かれます。例えば、岐阜県のスーパーカミオカンデでニュートリノ振動を発見といったニュースが流れると、宇宙規模の研究が日本で行われていることに胸が躍ります。ましてや、岩手県にI L Cが誘致されれば、この研究施設で新しい素粒子が発見できた！なんていうことが十分あり得ること。自分たちが暮らす岩手で世界や宇宙へつながる研究が進むワクワク感は尋常でない。実験施設ができることの大きな価値、その先に広がる波及効果を見据え、ぜひとも皆で推進して実現していきたいです。

佐々木◆世界規模で取り組む研究施設です。具体的議論の段階に入り、迷っている間に他国に持っていかれることなどないよう、スピード感を持った決断も重要ですね。

スポーツイベントを生かし、交流人口増加へ！

橋本◆I L C誘致に関しては、皆さん共に、現実感を持って捉えていら

っしゃいますね。一方でラグビーW杯をはじめとするスポーツの力も地域経済の活性化に計り知れないポテンシャルを秘めていると思います。

谷村◆ラグビーW杯は釜石で2試合が予定されています。現在、着々とスタジアムを建設中ですが、宿泊施設をしっかりと確保しなければなりません。そして観戦を機に釜石、そして岩手を訪れた方々に、対戦の間隔が少し空きますので、その間どう過ごしてもらおうか提案していくことも重要です。

鎌田◆そうですね。釜石でのW杯開催に伴って外国から来る関係者は滞在期間も長く、選手団の合宿地になる街もあるでしょう。岩手のスポーツは徐々にレベルアップしていますが、市内で世界トップレベルの外国人アスリートのトレーニング風景を見られたら、若い世代への刺激は大きいですね。

佐々木◆著名な選手に会える！というのは子どものみならず女性を動かす大きなモチベーションになります(笑)。トップ選手たちの試合を釜石で見られるのは貴重な機会です。また、試合開催期間に留まらず、未来のスポーツ教育への波及効果も期待できますから、そうなることを釜石でのラグビーW杯開催の意義が大きくなりますね。岩手にいらした方々を女

性ならではの「おもてなしの心」でサポートしていきたいです。

太田代◆スポーツツーリズムというスポーツに限らず、中総体や高総体開催なども宿泊施設にとって経済効果をもたらしてくれます。大学生や社会人大会などの誘致も積極的に進めることで、飲食業界や周辺の施設への経済効果が大きいのではないのでしょうか。少子化に伴いスポーツ人口も減っていますが、もう少し社会全体で盛り上げ、子どもたちのスポーツ振興に取り組んでいくことができたらと思います。

今年、さらに飛躍するために。

橋本◆盛岡や岩手の魅力を発信する



佐々木会長

うえで、皆さんそれぞれが先導役を担っています。最後に、改めて地域活性化に向けてどのように取り組んでいくか、皆さんから一言ずつお伺いします。

鎌田◆私は盛岡で生まれ育ったのですが、人も正直ですし、住んでみてこの土地で自分の子どもを育てることができて良かったと感じています。最近には自分に余裕のない人も多く窮屈な時代ではありますが、盛岡には経済効率とは別の良さがあると思います。将来的に子ども達をここで育てたいと思う人が多くなればいいし、そういうまちにしたいという思いだけですね。甘いことを話しているかもしれませんが、多少は夢や希望をもって甘いくらいの話をしていた方が、お互いに余裕が生まれるのかなと思います。

鈴木◆私も盛岡育ちでお祭りが大好きです。25歳頃、青年会議所に入会し、川まつりにも開催当初から関わりました。神輿の会長も務めさせていただき、とにかく地域の祭りすべてに関わっています。というのは、祭りを通して地域を活性化したいという夢が昔からあるからです。やはり鎌田副会長がおっしゃるように、この盛岡に根を張って生きていますから、一市民として自分が暮らすまちは元気にしなくてはという責任もあるんですね。視点はいろいろありま

すが、一個人ができることは限界があるので、自分の好きな祭りを通して活性化に貢献できたらと。今年もこれまでの積み重ねを大事に、スポーツや商工会議所事業とつながっていきたいですね。

太田代◆まちの観光素材のブラッシュアップや資源の再発掘はこの土地でも取り組んできたことですが、素材はあっても意外にうまく発信できずにいるケースも多々見られます。例えば、佐々木会長の話に出てきた、盛岡がノルウェーのようだと感じる首都圏の方々に対し、我々はどうアプローチしたらいいのか。住み手だけの視点で発信していくことは限界もあり、外の視点で解釈すべきことがあるのでは……。自分自身もなるべく外に出て人の声を聞き、違った目線の考え方を磨いていきたいと思っています。

佐々木◆暮らしていると当たり前になって良さがわからないこともありませぬ。気づきはしっかり振り返って、いかに次の事業に持っていかれるかが重要だと思っています。私自身のことでは、例えば、女性会で会長職をやらせていただいたおかげでいろんなご縁をいただきます。それを皆さんにお返しできるように活動をしていくことが自分の役割。女性会が親会を支える一つの重要な位置づけになれるよう、2018年は一層活動

に力を注ぎ、10月の全国総会の成功をめざします。

橋本◆ありがとうございます。では最後に商工会議所としてこの1年をどう取り組んでいくか、会頭から新年の抱負をお願いします。

谷村◆交流人口拡大については、イベント頼りにならず、それらをテコにどう持続する力に繋げていくかが何より重要であり、持続可能な成長に結びつけていくことが大事です。今年の抱負ということですが、数年前から会議所が取り組むべき基本課題は変わっていません。震災からの復興、中心市街地活性化、I L C誘致の実現、会員向けサービスの充実、それに国体後さらに強化されたスポーツ振興への取り組み等々、大事な課題を将来に生かすことです。現場の声を聴きながら県や国へさまざまな提言・要望をしていく役割を担うのが商工会議所。例えば、少子高齢化に伴う事業者の後継者不足も地域の重要課題です。事業承継税制の抜本拡充において納税猶予の方向性は打ち出されましたが、もう一歩進めた納税免除を勝ち取るまでがんばります。I L C誘致も世界に開かれた地方創生の効果を訴え、今年は活動を一層加速化していく覚悟です。

橋本◆祭りや全国規模のコンベンション、スポーツ等、交流人口増加が

期待されるイベント、そして定住人口増加への大きな鍵を握る国際リニアアコライダーの可能性について、多面的にお話をさせていただきました。今回は大きなポテンシャルを秘めた盛岡を改めて見直す機会にもなりました。皆さん、本日は貴重なお話を伺いすることができ、大変ありがとうございました。

